

『小学算数』 1年 年間指導計画 (詳細案)

0 ともだち (P. 2~7)

4月中旬 [3時間]

【単元の目標】

- ・ものの集まりやその個数に関心を持つとともに、観点を意識して集合をつくったり、数量の多少を比べたりしようとする。
- ・集合の要素の表し方や比べ方を、ことばやブロックなどを用いて考え表現することができる。
- ・集合の要素を1対1に対応させて数の大小を調べたり、間接対応させて比べたりすることができる。
- ・ものの集まりのつくり方や比べ方を理解する。

【単元の評価規準】

- 関**…身の回りの生活から、いろいろなものの集まりを見つけようとしている。
- 考**…観点に応じて、いろいろなものの集まりを見いだしている。
1対1対応によって、ものの個数・相等・多少を考えている。
- 技**…観点に応じて、ものの集まりをつくることができる。
ものの個数・相等・多少を比べることができる。
- 知**…いろいろな集まりのつくり方を理解している。
1対1対応による数の比べ方を理解している。

時	目 標	学 習 活 動	お も な 評 価 規 準
1	○教室の動物たちに興味を持ち、お話を想像する。 ○ものの集まりやその個数(1~5)に関心を持ち、観点を意識してものの集合をつくる。	・絵を見て自由に話し合いながら、ものの集まりを見つめる。 ・いろいろな観点や条件に応じた集合づくりをする。	関 いろいろな観点や条件に応じて、集合をつくらうとしている。 考 観点に応じて、ものの集まりを見いだしている。
2	○2つの集合の要素を1対1に対応させて、数の多少を調べる。	・2つの集合の要素の個数を比べる。 ・2つの集合の要素を、1対1対応によって比べる方法を考える。	考 1対1に対応させて数の多少を調べる方法を考えている。 知 1対1対応による数の比べ方を理解している。
3	○2つの集合の要素を、おはじきに置きかえて対応させ、比べることができる。	・2つの集合の要素の相等や多少を比較する方法を考える。 ・おはじきを用いて、2つの集合の要素を比べる。	考 2つの集合の要素を、おはじきに置きかえて対応させて比べる方法を考えている。 技 2つの集合の要素を、おはじきを用いて比べることができる。

1 10までの かず (P. 8~19)

4月下旬~5月中旬 [9時間]

【単元の目標】

- ・10までの数について、ものの集まりや個数に関心を持ち、数詞や数字で表そうとする。
- ・個数を調べるのに、半具体物や数字に置きかえて考えることができる。
- ・1から10までの数字を正しくよんだり、かいたりすることができる。
- ・1から10までの数字の正しいよみ方やかき方、大小、順序、系列や、空集合の大きさを表す0の意味、かき方を理解する。

【単元の評価規準】

- 関**…身の回りのものの個数を数えたり、数詞や数字で表したりしようとしている。
- 考**…ものの集まりを、半具体物や数字に置きかえて考えている。
数にかかわる活動を通して、ものの個数・相等・大小を考えている。
- 技**…0から10までの数字と数図カード、半具体物とを対応させることができる。
0から10までのものの個数を数字で表すことができる。

- 知**…0から10までの数の唱え方と、数字のかき方を理解している。
 1から10までの数の大小、順序、系列を理解している。
 0の意味、唱え方、数字のかき方を理解している。

時	目 標	学 習 活 動	お も な 評 価 規 準
1	○「いち」「に」「さん」「し」「ご」の数詞を知り、確実に数えることができる。	・「いち」…「ご」の数詞を知り、確実に数える。 ・1から5までの数について、半具体物、数図、数字を互いに対応させる。	関 身の回りのものの個数を数えるのに、数を用いて表そうとしている。 技 1から5までの個数を数えることができる。
2	○1から5までの数字のよみ方、かき方を理解する。	・1から5までの数字のよみ方、かき方を知る。 ・1から5までの数について、具体物、半具体物、数を関連づける。	技 1から5までの数字をよんだり、数えたりすることができる。 知 1から5までの数のよみ方、かき方を理解している。
3	○1から5までの数について、数字や絵で表現することができる。	・1から5までの数の表し方について練習する。	技 5までの数を、具体物、半具体物、数字に置きかえることができる。
4	○「ろく」「しち」「はち」「く」「じゅう」の数詞を知り、確実に数えることができる。	・「ろく」…「じゅう」の数詞を知り、確実に数える。 ・6から10までの数について、半具体物、数図、数字を互いに対応させる。	考 数を調べるのに、半具体物に置きかえて考えている。 技 6から10までの個数を数えることができる。
5	○6から10までの数字のよみ方、かき方を理解する。	・6から10までの数字のよみ方、かき方を知る。 ・6から10までの数について、具体物、半具体物、数を関連づける。	技 6から10までの数字をよんだり、数えたりすることができる。 知 6から10までの数のよみ方、かき方を理解している。
6	○6から10までの数について、数字や絵で表現することができる。	・6から10までの数の表し方について練習する。	技 10までの数を、具体物、半具体物、数字に置きかえることができる。
7	○10までの数について、その系列を理解する。	・1から10までの数について、少ない数から並んだブロックを見て、その系列を調べる。	技 10までの数で、1増えた数を表すことができる。 知 10までの数の系列を理解している。
8	○10までの数について、大小比較をすることができる。	・1から10までの数について、数の大小比較をする。	技 10までの数で、数の大小を比べることができる。 知 10までの数の大小を比べる方法を理解している。
9	○集合数の要素がないことを表す0の意味やかき方を理解する。	・0という数を知る。	知 0の意味、かき方を理解している。

2 なんばんめ (P. 20~23)

5月中旬 [2時間]

【単元の目標】

- ・数を用いて順番や位置を表そうとする。
- ・ものの位置を表す方法を、数やことばを用いて考えることができる。
- ・順序数と集合数の違いが明らかになり、順序数を用いて位置、順番などを正しく表すことができる。
- ・数やことばを用いた位置や順番の表し方を理解する。

【単元の評価規準】

- 関**…具体的な場面で、位置や順番を表すのに数やことばを用いるよさに気づいている。
考…数を集合数や順序数を表すものとして考えている。
技…数やことばを用いて位置や順番を表すことができる。
知…数やことばを用いた位置や順番の表し方を理解している。

時	目 標	学 習 活 動	お も な 評 価 規 準
1	○数やことば、順序数を用いて、横に並んだものの順序や位置を表すことができる。 ○集合数と順序数の違いを理解する。	・絵を見て、順序や位置（前後）を表すのに、数やことばを用いることを知る。 ・集合数と順序数の違いを考える。	関 数やことばを用いて順番や位置（前後）を表そうとしている。 知 集合数と順序数の違いを理解している。
2	○左右・上下のことばと順序数を用いて、ものの位置を表すことができる。 ○集合数と順序数の違いが理解でき、日常生活に生かすことができる。	・黒板に貼った絵を見て、物の位置（左右／上下）を表すのに、数やことばを用いることを知る。	考 「左右」「上下」などのことばを使い、数を用いてももの順番や位置を表す方法を考え、説明している。 扱 身の回りのものや絵に示されたものの位置や順序を説明することができる。

3 いくつと いくつ (P.24~31)

5月下旬〔7時間〕

【単元の目標】

- ・10までの数の合成・分解を行おうとする。
- ・1つの数を、ほかの2つの数の和や差としてとらえることができる。
- ・数の構成（合成・分解）を通して、10までの数の多様な見方（加法的な構成）ができる。
- ・10までの数の構成を理解する。

【単元の評価規準】

- 関**…1つの数を、ほかの数をを用いているいろいろな表し方でとらえようとしている。
- 考**…数の合成・分解を通して、数をいろいろな観点から考えている。
- 扱**…10までの数の合成・分解ができる。
- 知**…10までの数の合成・分解を理解している。

時	目 標	学 習 活 動	お も な 評 価 規 準
1	○おはじきゲームを通して、5を2つの数の組み合わせとしてとらえることができる。	・おはじきゲームを通して、5の分解を体験する。 ・5の合成・分解を行う。	関 おはじきゲームを楽しみながら、5の構成を調べようとしている。 扱 5の合成・分解ができる。
2	○手の中に隠したおはじきの数を考える活動を通して、6の合成・分解ができる。	・手の中に隠したおはじきの数を考える活動を行う。 ・6の合成・分解をまとめる。	扱 6の合成・分解ができる。 知 6の合成・分解の仕方を理解している。
3	○2つのさいころの目をあわせて7にする活動を通して、7の合成・分解ができる。	・2つのさいころの目をあわせて、7にする活動を行う。 ・7の合成・分解をまとめる。	扱 7の合成・分解ができる。 知 7の合成・分解の仕方を理解している。
4	○数図カードを組み合わせて8をつくる活動を通して、8の合成・分解ができる。	・数図カードを組み合わせて、8をつくる活動を行う。 ・8の合成・分解をまとめる。	扱 8の合成・分解ができる。 知 8の合成・分解の仕方を理解している。
5	○数字カードを組み合わせて9をつくる活動を通して、9の合成・分解ができる。	・数字カードを組み合わせて、9をつくる活動を行う。 ・9の合成・分解をまとめる。	扱 9の合成・分解ができる。 知 9の合成・分解の仕方を理解している。
6	○ブロックを使った数あてゲームを通して、10の合成・分解をすることができる。	・10個のブロックを使って、数あてゲームを行う。 ・10の合成・分解をまとめる。	考 10の合成・分解を通して、10をいろいろな観点から考えている。 扱 10の合成・分解ができる。

7	○10づくりのゲームを通して、楽しみながら10の合成・分解に習熟する。	・数字カードをあわせて、10にする活動を行う。 ・10になる数を選んで、線で囲む活動を行う。	<input checked="" type="checkbox"/> 筋道を立てて10の合成・分解について考えている。 <input checked="" type="checkbox"/> 10の合成・分解の仕方を理解している。
---	-------------------------------------	---	---

4 あわせて いくつ ふえると いくつ (P.32~43)

6月上旬～6月中旬 [9時間]

【単元の目標】

- ・身の回りから合併・増加の場面を見つけ、式に表すよさに気づき、加法を用いて解決しようとする。
- ・合併・増加の場면을加法としてとらえ、考えることができる。
- ・和が10までの加法の計算ができたり、式に見合うお話をつくったりすることができる。
- ・たし算の記号「+」「=」や式における記号の意味を理解し、加法の意味や加法の用いられる場面について理解する。

【単元の評価規準】

- 身の回りから合併・増加の場面を見つけ、ことばで表したり、加法を用いて解決したりしようとしている。
たし算カードを使って、友だちと練習しようとしている。
- 絵や図に表したり、ブロックを操作したりしながら、合併・増加の場면을加法として考えている。
- 合併・増加の場면을「+」「=」の記号を用いて式に表すことができる。
和が10以下の加法の計算ができる。
- 合併・増加の場面について、加法の意味を理解している。
和が10以下の加法の計算の仕方を理解している。

時	目 標	学 習 活 動	お も な 評 価 規 準
単元アプローチ (P.32~33) 1時間			
1	○2つの数量を見つけ、合併の場面のお話をつくる。	・さし絵を見て、合併の場面でのお話づくりをする。	<input checked="" type="checkbox"/> さし絵を見て、合併の場面のお話をつくるようとしている。 <input checked="" type="checkbox"/> 絵を見て、順序よくお話をつくることできる。
あわせて いくつ (P.32~35) 2時間			
2	○「+」「=」のかき方や用語「しき」「たしざん」について知り、合併の場면을式に表す方法を理解する。	・合併の場面で、さし絵やブロックの操作を見て、加法の意味をとらえる。 ・合併の場面での式の表し方を知る。	<input checked="" type="checkbox"/> 問題場면을加法としてとらえている。 <input checked="" type="checkbox"/> 合併の場面では加法が用いられることを知り、立式の仕方を理解している。
3	○合併の場面における加法の意味理解を深め、和が5以下の計算ができる。	・合併の場面における加法の式、答えなどのかき方を練習する。	<input checked="" type="checkbox"/> 問題場면을加法としてとらえ、絵に表し説明している。 <input checked="" type="checkbox"/> 和が5以下の加法の計算ができる。
ふえると いくつ (P.36~40) 3時間			
4	○増加の場面における加法の意味を理解し、式の表し方や答えのかき方を理解する。	・さし絵を見て、増加の場面でのお話づくりをする。 ・増加の場面で、さし絵やブロックの操作を見て、加法の意味をとらえる。 ・増加の場面での式の表し方を知る。	<input checked="" type="checkbox"/> 増加の場面も合併の場面と同じように、加法としてとらえている。 <input checked="" type="checkbox"/> 増加の場面でも加法が用いられることを知り、立式の仕方を理解している。
5	○加法の適用場面において加法の意味理解を深め、和が10以下の計算ができる。	・増加の場面における加法の式、答えなどのかき方を練習する。 ・フレーズ型の「式」の意味を知る。	<input checked="" type="checkbox"/> 問題場면을加法としてとらえ、図に表し説明している。 <input checked="" type="checkbox"/> 和が10以下の加法の計算ができる。
6	○たし算カードを使って、和が10以下のたし算の計算に習熟する。	【いち・に・さんかつ】 ・計算カードを使って、和が10以下のたし算の練習をする。	<input checked="" type="checkbox"/> たし算カードを使って、たし算の練習をしようとしている。 <input checked="" type="checkbox"/> 和が10以下の加法の計算の仕方を理解している。

0の たしざん (P. 41) 1時間			
7	○輪投げを通して、0の加法の意味を理解する。	・0を含む加法の意味を知り、計算をする。	考 0の式に表したり、式と0の事実を結びつけて、式をよみとったりしている。 知 0を含む加法の計算の仕方を理解している。
おはなし づくり (P. 42~43) 2時間			
8	○お話づくりを通して、加法の意味理解を深める。	・合併・増加を総合的にとらえたお話づくりをする。	考 式、さし絵から合併や増加の場面をとらえて、お話を考えている。 技 合併や増加の場面をお話にして表現することができる。
9	○加法の場面の絵本づくりに取り組み、絵を用いて表現することができる。	【いち・に・さんかつ】 ・合併・増加の場面をとらえて、たしざんえほんをつくる。	関 加法の絵本づくりに関心を持って取り組んでいる。 技 加法の場面を絵を用いて表現することができる。

5 のこりは いくつ ちがいは いくつ (P. 44~56)

6月下旬~7月上旬 [10時間]

【単元の目標】

- ・身の回りから求残や求補、求差の場面を見つけ、式に表すよさに気づき、減法を用いて解決しようとする。
- ・求残や求補、求差の場面を減法としてとらえ、考えることができる。
- ・被減数が10以下の計算ができたり、式に見合うお話をつくったりすることができる。
- ・ひき算の記号「-」や式における記号の意味を理解し、減法の意味や減法の用いられる場面について理解する。

【単元の評価規準】

- 関**…身の回りから求残や求補、求差の場面を見つけ、ことばで表したり、減法を用いて解決したりしようとしている。
ひき算カードを使って、友だちと練習しようとしている。
- 考**…絵や図に表したり、ブロックを操作したりしながら、求残や求補、求差の場面を減法として考えている。
- 技**…求残や求補、求差の場面を「-」「=」の記号を用いて式に表すことができる。
被減数が10以下の減法の計算ができる。
- 知**…求残や求補、求差の場面について、減法の意味を理解している。
被減数が10以下の減法の計算の仕方を理解している。

時	目 標	学 習 活 動	お も な 評 価 規 準
単元アプローチ (P. 44~45) 1時間			
1	○2つの数量を見つけ、求残の場面のお話をつくる。	・さし絵を見て、求残の場面でのお話づくりをする。	関 さし絵を見て、求残の場面のお話をつくろうとしている。 技 絵を見て、順序よくお話をつくることできる。
のこりは いくつ (P. 44~49) 4時間			
2	○「-」のかき方や用語「ひきざん」を知り、求残の場面を式に表す方法を理解する。 ○5までの数範囲の減法の計算ができる。	・求残の場面で、さし絵やブロックの操作を見て、減法の意味をとらえる。 ・求残の場面での式の表し方を知る。	考 問題場面を減法としてとらえている。 知 求残の場面では減法が用いられることを知り、立式の仕方を理解している。
3	○求残の場面における減法の意味理解を深め、9までの数範囲の減法の計算ができる。	・求残の場面における減法の式、答えなどのかき方を練習する。	考 問題場面を減法としてとらえ、絵に表し説明している。 技 減法の計算(9までの数-1位数)ができる。
4	○求補の場面における減法の意味を理解し、式の表し方や答えのかき方を理解する。	・求補の場面で、減法の意味をとらえ、式の表し方を考える。	考 求補の場面も求残の場面と同じように、減法としてとらえている。 知 求補の場面でも減法が用いられることを知り、立式の仕方を理解している。

5	○ひき算カードを使って、被減数が10以下のひき算の計算に習熟する。	【いち・に・算活】 ・計算カードを使って、被減数が10以下のひき算の練習をする。	関 ひき算カードを使って、ひき算の練習をしようとしている。 知 被減数が10以下の減法の計算の仕方を理解している。
0の ひきざん (P.50) 1時間			
6	○ポーリングを通して、0の減法の意味を理解する。	・0を含む減法の意味を知り、計算をする。	考 0の式に表したり、式と0の事実を結びつけて、式をよみとったりしている。 知 0を含む減法の計算の仕方を理解している。
ちがいは いくつ (P.51~54) 2時間			
7	○求差の場面における減法の意味を理解し、式の表し方や答えのかき方を理解する。	・求差の場面で、減法の意味をとらえ、式の表し方を考える。 ・求差の場面における減法の式、答えなどのかき方を練習する。	考 問題場面を減法としてとらえ、絵や図に表し説明している。 知 求差の場面でも減法が用いられることを知り、立式の仕方を理解している。
8	○2数の違い(差)は、減法で求められることを理解する。	・どちらがどれだけ多いか、式やことばを使って考え表現する。 ・数の違いの求め方を考える。	技 求差の場面を式に表し、計算して答えを求めたり、どちらがどれだけ多いかことばで表現したりすることができる。 知 求差の場合の式や答えのかき方を理解している。
おはなし づくり (P.55~56) 2時間			
9	○お話づくりを通して、減法の意味理解を深める。	・求残や求捕、求差を総合的にとらえたお話づくりをする。	考 式、さし絵から求残や求捕、求差の場面をとらえて、お話を考えている。 技 求残や求捕、求差の場面をお話にして表現することができる。
10	○減法の場面の絵本づくりに取り組み、絵を用いて表現することができる。	【いち・に・算活】 ・求残や求捕、求差の場面をとらえて、ひきざんえほんをつくる。	関 減法の絵本づくりに関心を持って取り組んでいる。 技 減法の場面を絵を用いて表現することができる。

6 かずを せいりしよう (P.58~59)

7月上旬 [1時間]

【単元の目標】

- ・ものの個数を絵図を用いて整理することのよさを知り、いろいろな場面で生かそうとする。
- ・ものの個数を絵図を用いてわかりやすく表したり、よみとったりすることができる。

【単元の評価規準】

- 関 …ものの個数を絵図を用いて整理することのよさを知り、いろいろな場面で生かそうとしている。
- 考 …ものの個数を絵図を用いて表すよさをとらえている。
- 技 …ものの個数を絵図を用いて表したり、よみとったりすることができる。
- 知 …ものの個数を絵図を用いて表すと、わかりやすいことを理解している。

時	目 標	学 習 活 動	お も な 評 価 規 準
1	○ものの個数を絵図を用いて表したり、よみとったりすることができる。	・ものの個数を絵図を用いて整理する。 ・絵図を見て、ものの個数を考察する。	考 ものの個数を絵図を用いて表すよさをとらえている。 技 ものの個数を絵図を用いて表したり、よみとったりすることができる。

* ふくしゅう (P.60~61) 配当時数なし

※	「ふくしゅう」(P.60~61)は、予備時間や家庭学習などを通して弾力的に扱います。
---	--

7 10より おおきい かず (P.63~71)

9月上旬～9月中旬 [8時間]

【単元の目標】

- ・10といくつと数えるよさに気づき、ものの数を数えようとする。
- ・10といくつという数の見方をしたり、数の構成に基づいて簡単な20までの計算の仕方を考えたりすることができる。
- ・20までの数についてよんだり、かいたりすることができ、数の構成に基づく20までの簡単な計算をしたりすることができる。
- ・20までの数の構成、よみ方、かき方や大小、順序、系列を理解する。

【単元の評価規準】

- 関**…身の回りのものの数を数えたり、数を用いて表したりしようとしている。
- 考**…20までの数を10のまとまりと端数という見方でとらえている。
- 技**…20までの数を正しく数えたり、数字で表したりすることができる。
繰り上がりのない(2位数)+(1位数)や繰り下がりのない(2位数)-(1位数)の計算ができる。
- 知**…20までの数のよみ方、かき方、大小、順序、系列を理解している。

時	目 標	学 習 活 動	お も な 評 価 規 準
※	「つぎのがくしゅうのために」	(P.62) は、予備時間や家庭学習などを通して弾力的に扱います。	
1	○20までのものの数を、10といくつという見方で考える。	・トマトの数を数えることを通して、10より大きい数の表し方を考える。	考 20までのものの数を10のまとまりの数と端数に着目してとらえ、その表し方を考えている。
2	○20までのものの数を正しく数え、その数のよみ方、かき方を理解する。	・20までの数のよみ方、かき方を知る。	技 20までのものの数を正しく数えたり、数字で表したりすることができる。 知 20までの数のよみ方、かき方を理解している。
3	○20までの数の数え方の理解を深める。	・20までの数の数え方の定着を図る。 ・2ずつ、5ずつまとまったものの数をくふうして数える。	考 20までの数を、10といくつという見方を用いたり、2ずつ、5ずつに着目したりして数えるくふうを考えている。 技 20までのものの数を2ずつ、5ずつにまとめて数えることができ、「じゅういくつ」と表すことができる。
4	○20までの数について、「10といくつ」という見方で合成・分解ができる。	・20までの数の構成について、合成の見方で考える。 例 10と6で□ ・20までの数の構成について、分解の見方で考える。 例 13は10と□	技 20までの数を、10といくつという構成に着目して表現できる。
5	○20までの数について、順序や系列を理解する。	・20までの数の系列をいろいろな見方でとらえる。	知 20までの数について、順序や系列を理解している。 知 かずのせん(数直線)の意味を理解している。
6	○20までの数について、大小比較の仕方を理解する。	・20までの数の大小関係を考える。 【いち・に・算活】 ・20の量感を養う。	知 20までの数について、大小比較の仕方を理解している。 関 およそ20個の量感を身につけようとしている。
たしざんと ひきざん (P.70~71)		2時間	
7	○10と1位数の加法とその逆の減法の計算ができる。	・20までの数の構成を、10と1位数の加法とその逆の減法でとらえる。 例 10+6 16-6	考 数の構成に着目して、10といくつの加法やその逆の減法の式に表して考えている。 技 数の構成に基づいて、10といくつの加法とその逆の減法の計算ができる。
8	○20までの数範囲で、繰り上がりのない(2位数)+(1位数)や繰り下がりのない(2位数)-(1位数)の計算ができる。	・20までの数の構成を加法や減法でとらえる。 例 12+4 14-2	考 ブロックなどを用いて、計算の仕方を考えている。 技 数の構成に基づいて、繰り上がり・繰り下がりのない20までの計算ができる。

8 なんじ なんじはん (P.72~73)

9月下旬 [1時間]

【単元の目標】

- ・時計の長針と短針の役割について理解し、1日の生活と関連づけて「何時」「何時半」の時刻をよむことができる。

【単元の評価規準】

- 関**…時刻に関心を持ち、1日の生活と関連づけて、時刻をよもうとしている。
- 考**…時計の長針・短針の位置関係をとらえ、「何時」「何時半」のよみ方を考えている。
- 技**…日常生活と関連させながら、「何時」「何時半」をよんだり、表したりすることができる。
- 知**…1日の生活と結びつけて、時刻の意味や「何時」「何時半」のよみ方を理解している。

時	目 標	学 習 活 動	お も な 評 価 規 準
1	○1日の生活と関連づけて、時刻の意味を理解し、時計を見て、「何時」「何時半」をよむことができる。	・1日の生活と関連づけながら、「何時」「何時半」の時刻をよむ。	関 時刻に関心を持ち、1日の生活と関連づけて、時刻をよもうとしている。 技 「何時」「何時半」の時刻をよんだり、時計で表したりすることができる。

9 かたちあそび (P.74~78)

9月下旬~10月上旬 [5時間]

【単元の目標】

- ・身の回りにある立体図形の特徴や機能を生かして、形を構成しようとする。
- ・身の回りにあるものの形について、立体図形の機能や形状をとらえることができる。
- ・形の特徴をつかみ、なかま分けすることができ、立体を構成している面に着目して、平面図形を見つめることができる。
- ・身の回りにあるものの構成や観察を通して、ものの形を認めたり、形の特徴をとらえたりする感覚を持つ。

【単元の評価規準】

- 関**…身近にある具体物（箱や筒など）を使っていろいろなもの形をつくらうとしている。
- 考**…いろいろなもの形をつくる時に、立体図形の機能や形状を生かして考えている。
- 技**…身近にある具体物（箱や筒など）を用いて、もの形を構成することができる。
- 知**…構成や観察を通して、ものの形を認めたり、形の特徴をとらえたりする感覚を持っている。

時	目 標	学 習 活 動	お も な 評 価 規 準
1	○身の回りにある立体図形の特徴や機能を生かして、形を構成しようとする。	・箱などを積んだり重ねたりして、乗り物や動物などをつくり、具体物の特徴や機能を調べる。	関 身近にある具体物を使っていろいろなもの形をつくらうとしている。 考 ものの形をつくる時に、立体図形の機能や形状を生かして考えている。
2	○形の特徴をつかみ、なかま分けをすることができる。	・箱など、身の回りの具体物（立体図形）を分類する。 ・立体図形の構成要素をとらえ、その特徴を説明する。	技 大きさや色、素材などを捨象して、形状によるなかま分けができる。
3	○手探りで立体図形を触り、その特徴をとらえ、立体図形を識別する。	・立体図形の構成要素をとらえ、識別する。	考 立体図形を識別することを通して、面や角などに着目して、立体図形の特徴を考えている。
4 ・ 5	○立体の面をうつつて平面図形を抽出できる。 ○立体図形から平面図形が抽出できる。	・立体の面をうつつて平面図形を抽出し、その形を使った絵をかく。	技 身の回りの立体の面に着目して、まる、さんかくなどの形を認めることができる。 知 立体図形から平面図形を抽出することができることを理解している。

10 ふえたり へったり (P.80~83)

10月上旬 [3時間]

【単元の目標】

- ・3つの数の計算が1つの加法や減法の式に表せるよさに気づき、用いようとする。
- ・2つの数の加法や減法の考え方を使得って、3つの数の加減の計算の仕方を考えることができる。
- ・加法と減法との組み合わせによる3つの数の計算(答えが20未満)ができる。
- ・いろいろな組み合わせの3つの数の加減の計算の意味や仕方を理解する。

【単元の評価規準】

- 関**…3つの数の計算が1つの加法や減法の式に表せるよさに気づき、用いようとしている。
- 考**…2つの数の加法や減法の考え方を使得って、3つの数の加減の計算の仕方を考えている。
- 技**…3つの数を用いて1つの式に表し、結果を計算で求めることができる。
- 知**…いろいろな組み合わせの3つの数の加減の計算の意味や仕方を理解している。

時	目 標	学 習 活 動	お も な 評 価 規 準
※	「つぎのがくしゅうのために」(P.79)は、予備時間や家庭学習などを通して弾力的に扱います。		
1	○加法と加法を組み合わせた3つの数の計算ができる。	・電車ごっこを通して、3つの数の計算の場面を体感する。 ・3つの数の加法の式の計算の仕方を考える。	考 2つの数の加法の考えを使得って、3つの数の加法の計算の仕方を考えている。 技 3つの数の加法の場面を1つの式に表し、その計算ができる。
2	○減法と減法を組み合わせた3つの数の計算ができる。	・電車ごっこの場面を通して、3つの数の減法の式の計算の仕方を考える。	考 2つの数の減法の考えを使得って、3つの数の減法の計算の仕方を考えている。 技 3つの数の減法の場面を1つの式に表し、その計算ができる。
3	○加法と減法、減法と加法を組み合わせた3つの数の計算ができる。	・3つの数の加減のまざった式の計算の仕方を考える。	技 3つの数を用いて1つの式を表し、結果を計算で求めることができる。 知 いろいろな組み合わせの3つの数の加減の計算の意味や仕方を理解している。

11 どちらがながい (P.84~88)

10月中旬 [4時間]

【単元の目標】

- ・身の回りのいろいろなものの長さに関心を持ち、くふうしてその長さを比べようとする。
- ・身の回りのものを使って、長さをうつし取ったり、数値化したりして、長さの比べ方を考えることができる。
- ・直接比較や間接比較、任意単位によるそれぞれの測定の方法で、長さを比べることができる。
- ・具体的なものの長さを比べることを通して長さの意味を理解し、長さについて、直接比較や間接比較、任意単位による測定の方法を理解する。

【単元の評価規準】

- 関**…身の回りのいろいろなものの長さに関心を持ち、くふうしてその長さを比べようとしている。
- 考**…いろいろなものの長さの比べ方や、基準量のいくつ分としての表し方を考えている。
- 技**…いろいろなものの長さを比べたり、任意の単位のいくつ分として数で表したりすることができる。
- 知**…身の回りのいろいろなものの長さのはかり方、比べ方を理解している。
身の回りの長さの大小をとらえるなど、量の大きさについての感覚を持っている。

時	目 標	学 習 活 動	お も な 評 価 規 準
1	○具体的なものの長さを比べることを通して、長さの意味や直接比較の方法を理解する。	・2本の傘、ひもや紙の縦と横の長さを直接比較によって比べる。	関 身の回りにあるものの長さをくふうして比べようとしている。 知 長さを直接比較で比べる方法を理解している。
2	○長さについて、間接比較の方法を理解する。	・本の縦と横の長さを、間接比較(テープで長さを抽出する)で比べる。 ・テーブルと扉の幅、水そうと机の幅を間接比較で比べる。	関 テープを用いて長さを比べようとしている。 知 テープを用いて、長さを間接比較で比べる方法を理解している。

3	○テープを用いて、身の回りのものの長さを比べることができる。	【いち・に・さんかつ】 ・身の回りのものの長さ比べをする。	関テープを用いて、いろいろなものの長さを比べようとしている。 技テープに長さをうつし取り、いろいろなものの長さを間接比較で比べることができる。
4	○身の回りのものの長さを、基準量のいくつ分として数値化することを通して、測定の基礎を理解する。	・いろいろなものの長さを任意単位を使って表す。	関いろいろなものの長さを、基準量のいくつ分として、数で表すことができる。 知任意単位を用いて、ものの長さを表す方法を理解している。

12 たしざん (P.90~99)

10月中旬～11月上旬 [10時間]

【単元の目標】

- ・既習の計算の仕方や数の構成をもとに、10のまとまりをつくるよさに気づき、繰り上がりのある1位数と1位数の加法の計算をしようとする。
- ・繰り上がりのある1位数と1位数の加法で、計算の仕方を考え表現することができる。
- ・繰り上がりのある1位数と1位数の加法の計算ができる。
- ・10のまとまりに着目するという、繰り上がりのある1位数と1位数の加法の計算の仕方を理解する。

【単元の評価規準】

- 関…繰り上がりのある加法の計算の仕方を考えたり、活用したりしようとしている。
たし算カードを使って、友だちと練習しようとしている。
- 考…1位数の構成や10の補数に着目して、計算の仕方を考え表現している。
- 技…(1位数)+(1位数) [繰り上がりあり] の計算ができる。
- 知…(1位数)+(1位数) [繰り上がりあり] の計算の仕方を理解している。

時	目 標	学 習 活 動	お も な 評 価 規 準
※	「つぎのがくしゅうのために」(P.89) は、予備時間や家庭学習などを通して弾力的に扱います。		
1 ・ 2	○単元アプローチ (P.90-91) ・さし絵を見て、たし算の問題をつくる。		
2	○問題づくりを通して、繰り上がりのあるたし算に興味を持ち、計算の仕方を考える。	・加数分解に適した加法の計算の仕方を考える。 例 9+4 ・9+4の計算の仕方をまとめる。	考繰り上がりのある加法の計算の仕方を考えている。 技加数分解による繰り上がりのある加法の計算ができる。
3	○被加数<加数の場合の繰り上がりのある加法の計算ができる。	・被加数分解に適した加法の計算の仕方を考える。 例 3+9 ・3+9の計算の仕方をまとめる。	考10のまとまりをつくる簡単な方法を考えている。 技被加数分解による繰り上がりのある加法の計算ができる。
4	○繰り上がりのあるたし算の仕方を理解する。	・加数分解、被加数分解どちらも使える場合の計算の仕方を考える。 例 8+7	考繰り上がりのある加法の計算の仕方を、10のまとまりをつくることに着目して考え、図、式などを使って表現している。 知繰り上がりのある加法の計算の仕方を理解している。
5	○繰り上がりのあるたし算の仕方の理解を深める。	・繰り上がりのある加法の計算の定着を図る。	技繰り上がりのある加法の計算ができる。
6 ・ 7 ・ 8	○たし算カードを使って、繰り上がりのある加法の計算に習熟する。	【いち・に・さんかつ】 ・たし算カードを並べ、きまりを見つける。 ・計算カードを使って、繰り上がりのある計算の練習をする。	考たし算カードの並び方や被加数・加数の変化の仕方から、式を関連づけてみることができる。 関たし算カードを使って、友だちと練習しようとしている。 技繰り上がりのある加法の計算ができる。

9	○式を見て、繰り上がりのある加法の問題をつくらることができる。	・加法の場面での問題づくりを行う。	関 身の回りから、式に合う場面を見つけ、加法の問題づくりに取り組もうとしている。 技 式を見て、加法の問題づくりができる。
学習のまとめ 1時間			
10	○「たしかめポイント」(P.99) に取り組み、学習内容についての理解を確かなものにする。		

※たしざんの単元は第2時～第4時まで2通りの流れが考えられます。子どもの実態にあわせ、計画を組み立ててください。

- ① 第2時【9+4】→第3時【3+9】→第4時【8+7】
 ② 第2時【8+7】→第3時【9+4】→第4時【3+9】

13 どちらが おおい どちらが ひろい (P.100~104)

11月中旬 [5時間]

【単元の目標】

- ・かさや広さに関心を持ち、比べたり相手に伝わる方法で表したりしようとする。
- ・かさや広さの比べ方や数値化する方法を考えたることができる。
- ・かさや広さを比べたり、数値化して比べたりすることができる。
- ・かさや広さを比べることを通してかさや広さの意味を理解し、数値化することを通して測定の基礎を理解する。

【単元の評価規準】

- 関**…身の回りのいろいろなもののかさや広さに関心を持ち、くふうしてそのかさや広さを比べようとしている。
考…いろいろなもののかさや広さの比べ方や、基準量のいくつ分としての表し方を考えている。
技…いろいろなもののかさや広さを比べたり、任意の単位量のいくつ分として数で表したりすることができる。
知…身の回りのいろいろなもののかさや広さのはかり方、比べ方を理解している。
 身の回りのかさや広さの大小をとらえるなど、量の大きさについての感覚を持っている。

時	目 標	学 習 活 動	お も な 評 価 規 準
単元アプローチ (P.100~101) 1時間			
1	○容器が変わっても、かさは変わらないことを理解する。	・水をいろいろな容器に移しかえて、かさを比べる。	関 水を移しかえて、水のかさがどのように変化するのか調べようとしている。 知 水のかさは、形の異なる容器に入れても変化するしないことを理解している。
1 かさくらべ (P.100~103) 2時間			
2	○水のかさを直接比較、間接比較の方法で比べることができる。	・かさの意味を知る。 ・かさを直接比較、間接比較によって比べる。	考 かさも長さと同じように、直接比較や間接比較で比べられると考えている。 技 かさを直接比較や間接比較で比べることができる。
3	○かさを任意単位を用いて、数値化して比較する方法を理解する。	・かさを任意単位(コップ)を使って数値化し、比べる。	考 かさも長さと同じように、任意単位を用いて、数値化して表す方法を考えている。 知 任意単位を用いて、かさを比較する方法を理解している。
2 ひろさくらべ (P.104) 2時間			
4	○広さを直接比較の方法で比べることができる。	・広さの意味を知る。 ・広さを直接比較によって比べる。	考 広さも長さやかさと同じように、直接比較で比べられると考えている。 技 広さを直接比較で比べることができる。
5	○広さを任意単位を用いて、数値化して比較する方法を理解する。	【いち・に・さんかつ】 ・広さを任意単位(方眼)を使って数値化し、比べる。	考 広さも長さやかさと同じように、任意単位を用いて、数値化して表す方法を考えている。 知 任意単位を用いて、広さを比較する方法を理解している。

【単元の目標】

- ・既習の計算の仕方や数の構成をもとに、被減数を10といくつの数とすることに気づき、繰り下がりのある減法の計算をしようとする。
- ・繰り下がりのある(十何)－(1位数)の減法で、計算の仕方を考え表現することができる。
- ・繰り下がりのある(十何)－(1位数)の減法の計算ができる。
- ・被減数を10といくつの数と考えるという、繰り下がりのある減法の計算の仕方を理解する。

【単元の評価規準】

- 関**…繰り下がりのある減法の計算の仕方を考えたり、活用したりしようとしている。
ひき算カードを使って、友だちと練習しようとしている。
- 考**…数の構成に着目して、計算の仕方を考え表現している。
- 技**…(十何)－(1位数) [繰り下がりあり] の計算ができる。
- 知**…(十何)－(1位数) [繰り下がりあり] の計算の仕方を理解している。

時	目 標	学 習 活 動	お も な 評 価 規 準
※	「つぎのがくしゅうのために」(P.105)は、予備時間や家庭学習などを通して弾力的に扱います。		
1	○単元アプローチ (P.106-107) さし絵を見て、ひき算の問題をつくる。		
2	○問題づくりを通して、繰り下がりのあるひき算に興味を持ち、計算の仕方を考える。	・減加法に適した減法の計算の仕方を考える。 例 13-9 ・13-9の計算の仕方をまとめる。	考 繰り下がりのある減法の計算の仕方を考えている。 技 減加法による繰り下がりのある減法の計算ができる。
3	○(十何)－(1位数)で、繰り下がりのある減法の計算を、減々法を使って計算することができる。	・減々法に適した減法の計算の仕方を考える。 例 12-3 ・12-3の計算の仕方をまとめる。	考 減数を分解して、計算する方法を考えている。 技 減々法による繰り下がりのある減法の計算ができる。
4	○繰り下がりのあるひき算の仕方を理解する。	・減加法、減々法どちらも使える場合の計算の仕方を考える。 例 15-8	考 繰り下がりのある減法の計算の仕方を、被減数を10といくつの数として考え、図、式などを使って表現している。 知 繰り下がりのある減法の計算の仕方を理解している。
5	○繰り下がりのあるひき算の仕方の理解を深める。	・繰り下がりのある減法の計算の定着を図る。	考 被減数、減数の大きさを判断し、自分に合った方法で減法の計算を考えている。 技 繰り下がりのある減法の計算ができる。
6 ・ 7 ・ 8	○ひき算カードを使って、繰り下がりのある減法の計算に習熟する。	【いち・に・さんかつ】 ・ひき算カードを並べ、きまりを見つける。 ・計算カードを使って、繰り下がりのある計算の練習をする。	考 ひき算カードの並び方や被減数・減数の変化の仕方から、式を関連づけてみるができる。 関 ひき算カードを使って、友だちと練習しようとしている。 技 繰り下がりのある減法の計算ができる。
9	○式を見て、繰り下がりのある減法の問題をつくることことができる。	・減法の場面での問題づくりを行う。	関 身の回りから、式に合う場面を見つけ、減法の問題づくりに取り組もうとしている。 技 式を見て、減法の問題づくりができる。
学習のまとめ 1時間			
10	○「たしかめポイント」(P.115)に取り組み、学習内容についての理解を確かなものにする。		

※ひきざんの単元は第2時～第4時まで2通りの流れが考えられます。子どもの実態にあわせ、計画を組み立ててください。

- ① 第2時【13-9】→第3時【12-3】→第4時【15-8】
- ② 第2時【15-8】→第3時【13-9】→第4時【12-3】

● たすのかな ひくのかな (P. 116~117) 12月上旬 [2時間]

時	目 標	学 習 活 動	おもな評価規準
1 ・ 2	○加法・減法を使って問題を解決することを通して、演算を決定する力を伸ばす。	・問題文を読み、どのような計算で求められるかを考えて、解決する。	考 合併、求残、求差の問題場面を、加法や減法としてとらえている。 技 合併、求残、求差の問題を式に表して答えを求めることができる。

* ふくしゅう (P. 118~119) 配当時数なし

※	「ふくしゅう」(P. 118~119) は、予備時間や家庭学習などを通して弾力的に扱います。
---	--

15 20より大きいかず (P. 121~133)

1月上旬~1月下旬 [11時間]

【単元の目標】

- ・10ずつまとめて数えるよさや十進位取り記数法のよさに気づき、ものの数を数えようとする。
- ・既習の数の数え方をもとに、120程度までの数の表し方を考え表現することができる。
- ・120程度までの数についてよんだり、かいたりすることができる。
- ・120程度までの数の構成、よみ方、かき方や大小、順列、系列を理解する。

【単元の評価規準】

関…10ずつまとめるよさがわかり、身の回りのものの個数を10のまとまりをつくって、数えたり表そうとしたりしようとしている。

考…多くの数を数えるとき、10ずつのまとまりをつくって考えるよさを見いだしている。

技…120程度までの数を正しく数えたり、数字で表したりすることができる。

知…120程度までの数のよみ方、かき方、大小、順序、系列を理解している。

時	目 標	学 習 活 動	おもな評価規準
※	「つぎのがくしゅうのために」(P. 120) は、予備時間や家庭学習などを通して弾力的に扱います。		
1	かずの あらわしかた (P. 121~124) 3時間		
1 ・ 2	○2位数を正しく数え、その数のよみ方とかき方や十進位取り記数法を理解する。	・20より大きい数の数え方(10がいくつ分とあといくつ)を考える。 ・2位数のよみ方、かき方(位取り記数法)を知る。 ・2位数の数え方の定着を図る。	関 身の回りのものの個数を、10のまとまりをつくって、数えたり表そうとしたりしようとしている。 技 2位数をよんだり、かいたりすることができる。 知 2位数が示す数字の意味や、その数の大きさを理解している。
3	○2位数が示す各数字の意味を理解し、2位数の構成について理解を深める。	・「10がいくつと1がいくつ」で表された数を表す。 ・数を「10がいくつと1がいくつ」とみてブロックを並べる。	技 2位数の構成を「10がいくつと1がいくつ」でとらえることができる。 知 2位数を、加法的構造でみることを理解している。
2	100までの かず (P. 125~128) 3時間		
4	○2位数の構成をもとに、100について調べ、100について理解する。	・100のよみ方、かき方を知る。	知 10が10個で100になることや、99より1大きい数は100であることを理解している。
5	○100までの数の数表から、数の構成や規則性を理解する。	・100までの数のカードを並べた数表の規則性について見つけたことを発表する。	考 数表から数の並び方のきまりを見出し、説明している。 技 0から100までの数の順序を正しく理解している。

6	○100までの数について、大小、順序や系列を理解する。	・かずのせん（数直線）を使って、100までの数の大小関係、系列を考える。	知 かずのせん（数直線）を使って、100までの数の大小関係、順序や系列を理解している。
3 100より 大きい かず (P.129~132) 4時間			
7	○100をこえる数の構成、よみ方、かき方を理解する。	・100をこえる数の表し方を考え、よみ方、かき方を知る。	技 100をこえる数を正しくよんだり、かいたりすることができる。 知 100をこえる数の構成やよみ方、かき方を理解している。
8	○120程度までの数について、大小、順序や系列を理解する。	・100をこえる数の大小関係、系列を考える。	知 120程度までの数の大小関係、順序や系列を理解している。
9	○120程度までの数について、数の多面的な見方をするができる。	・数を多面的にとらえる見方について考える。	関 120程度までの数について、いろいろな表し方を考え、発表しようとしている。 考 120程度までの数について、合成・分解などの多面的な見方で考え表現している。
10	○身の回りにあるいろいろな数を見つけようとする。	【いち・に・さんかつ】 ・身の回りにあるものから、120程度までの数を探す。	関 身の回りで、120程度までの数が使われているものを探そうとしている。 技 身の回りにある120程度までの数をよんだり、かいたりすることができる。
学習のまとめ 1時間			
11	○「たしかめポイント」(P.133)に取り組み、学習内容についての理解を確かなものにする。		

16 なんじ なんぷん (P.134~136)

2月上旬 [2時間]

【単元の目標】

- ・日常生活の活動と時刻を関連させようとする。
- ・時計の目盛りと長針、短針の位置関係に着目して、時刻のよみ方を考えることができる。
- ・日常生活と関連させながら、「何時何分」をよむことができる。
- ・1日の生活と結びつけて、時刻の意味を理解する。

【単元の評価規準】

- 関**…日常生活での活動と時刻を関連させ、活用しようとしている。
- 考**…時計の目盛りと長針、短針の位置関係に着目して、時刻のよみ方を考えている。
- 技**…時計をよんだり、時計で時刻を表したりすることができる。
- 知**…短針は「何時」、長針は「何分」を表していることを理解している。
時計の分刻みのよみ方を理解している。

時	目 標	学 習 活 動	お も な 評 価 規 準
1	○1日の生活と関連づけながら、「何時何分」をよむことができる。	・1日の生活と関連づけながら、「何時何分」の時刻をよむ。	技 時刻をよんだり、時計で時刻を表したりすることができる。 知 短針は「何時」、長針は「何分」を表していることを理解している。
2	○日常生活と時刻を関連づけて発表することができる。 ○身の回りにあるいろいろな時計に興味を持ち、見つけようとする。	【いち・に・さんかつ】 ・自分の生活と時刻を関連づけて、休みの1日について発表する。 【いち・に・さんかつ】 ・身の回りにあるいろいろな時計を探す。	技 日常生活と時刻を関連づけて話すことができる。 関 身の回りにあるいろいろな時計に興味を持ち、見つけようとしている。

17 たしざんと ひきざん (P.139~143)

2月上旬～2月中旬 [4時間]

【単元の目標】

- ・数の構成をもとに計算できるよさに気づき、加法や減法に用いようとする。
- ・簡単な場合、2位数を含む加法及び減法の計算の仕方を考えることができる。
- ・2位数の構成をもとにして、10を単位とした加法及び減法の計算ができ、繰り上がりのない(2位数)+(1位数)、(1位数)+(2位数)、繰り下がりのない(2位数)-(1位数)の計算ができる。
- ・数の構成をもとに、(何十)±(何十)、(2位数)±(1位数) [繰り上がり、下がりなし] の計算の仕方を理解している。

【単元の評価規準】

- 関**…2位数の構成をもとにして、加法や減法の計算の仕方を考えようとしている。
- 考**…10のまとまりに着目し、既習の加法及び減法に帰着して計算の仕方を考えている。
- 技**…(何十)±(何十)、(2位数)±(1位数) [繰り上がり、下がりなし] の計算ができる。
- 知**…(何十)±(何十)、(2位数)±(1位数) [繰り上がり、下がりなし] の計算の仕方を理解している。

時	目 標	学 習 活 動	お も な 評 価 規 準
※	「つぎのがくしゅうのために」(P.138) は、予備時間や家庭学習などを通して弾力的に扱います。		
1	○ (何十) + (何十) の計算の仕方がわかり、(何十) + (何十) = (何十)、100の計算ができる。	・数の構成(10がいくつ)をもとに、20+30の計算の仕方を考える。	考 既習の計算と同じように、(何十)+(何十)の計算の仕方を10を単位として考えている。 技 (何十) + (何十) の計算ができる。
2	○ (何十) - (何十) の計算の仕方がわかり、(何十)、100-(何十) = (何十) の計算ができる。	・数の構成(10がいくつ)をもとに、50-20の計算の仕方を考える。	考 既習の計算と同じように、(何十)、100-(何十)の計算の仕方を10を単位として考えている。 知 (何十)、100-(何十) の計算ができる。
3	○簡単な2位数の加法の計算の仕方を理解する。	・20+4の計算の仕方を考える。 ・35+3の計算の仕方を考える。	技 (何十)+(何)、(何十何)+(何) (繰り上がりなし) の計算ができる。 知 数の構成(何十といくつ)をもとに、位で分けて計算する仕方を理解している。
4	○簡単な2位数の減法の計算の仕方を理解する。	・26-6の計算の仕方を考える。 ・26-3の計算の仕方を考える。	技 (何十何)-(何)=(何十)、(何十何)-(何)=(何十何) (繰り下がりのない) の計算ができる。 知 数の構成(何十といくつ)をもとに、位で分けて計算する仕方を理解している。

18 ずを つかって かんがえよう (P.144~149)

2月中旬 [4時間]

【単元の目標】

- ・順序数や求大、求小の場面を図で表すことのよさに気づき、問題解決に用いようとする。
- ・順序数や求大、求小の場面を図で表して、考えることができる。
- ・問題の要素を図に表して数量の関係をとらえ、式に表すことができる。
- ・問題場面の意味をよみとり、その数量の関係を理解する。

【単元の評価規準】

- 関**…問題場面を、図や具体物を使って解決しようとしている。
- 考**…問題場面を、1対1対応の考え方や筋道を立てた考え方をを用いて考え、式に表している。
- 技**…式や図で問題場面を表したり、式をよみとったりすることができる。
- 知**…問題場面の意味をよみとり、その数量の関係を理解している。

時	目 標	学 習 活 動	お も な 評 価 規 準
1	○順序数が含まれる問題を解くことができる。	・順序数が含まれる場面について、加法や減法の用い方を考える。	考 順序数が含まれる場面を、図やブロックを使って考え、式で表している。 技 順序数が含まれる場面を、式や図で考えを表現でき、計算によって解くことができる。

2	○2つの違う種類の数を同じ数に置き換えて問題を解くことができる。	・間接加法，間接減法の場面について，加法，減法の使い方を考える。	考 1対1対応の考え方をを用いて，式や図を使って問題場面を考えている。 技 2つの違う種類の数の場合，1対1対応の考え方をを用いて式や図で考えを表現でき，計算によって解くことができる。
3	○求大の場面を理解し，計算で解くことができる。	・求大の場面について，加法の使い方を考える。	考 2つの数量の関係をとらえ，式や図で表している。 知 問題に表された数量の関係を理解している。
4	○求小の場面を理解し，計算で解くことができる。	・求小の場面について，減法の使い方を考える。	考 2つの数量の関係をとらえ，式や図で表している。 知 問題に表された数量の関係を理解している。

19 かたちづくり (P.150~154)

2月下旬 [4時間]

【単元の目標】

- ・身の回りから形を見つけたり，図形やひごを使って形を構成・分解したりしようとする。
- ・つくりたい形の構成の仕方を考えたり，形を構成している色板やひごをどのように移動させれば新しい形ができるか考えたりすることができる。
- ・色板やひごを使って図形を構成することができる。
- ・色板の移動による変形を通して，図形移動の基本を身につける。

【単元の評価規準】

- 関**…色板やひごを使って，いろいろな形を構成したり，変形したりしようとしている。
- 考**…形を構成している色板やひごを，どのように移動させれば新しい形ができるかを考えている。
- 技**…色板やひごを使って，いろいろな形を構成したり変形したりすることができる。
- 知**…色板やひごでいろいろなものの形を構成することを通して，図形に関する経験を豊かにしている。

時	目 標	学 習 活 動	お も な 評 価 規 準
1	○色板でできた形が何かを考えたり，色板を使っていろいろな形をつくらうことができる。	【いち・に・算活】 ・色板を組み合わせて，いろいろな形を構成する。	関 色板でできた形が何かを考えたり，つくったりしようとしている。 技 色板を使って，いろいろな形をつくらうことができる。
2	○色板を使っていろいろな形を構成したり，色板をずらしたり，まわしたり，裏返したりして形を変形したりすることができる。	・4枚の色板で図形を構成する。 ・色板を動かして，形を変形する。	技 ものの形を概形でとらえ，いろいろな形をつくらうことができる。 知 色板でいろいろなものの形を構成することを通して，図形に関する経験を豊かにしている。
3	○ひごを使って，いろいろな形を構成することができる。	・ひごを使って，いろいろな形を構成する。	関 ひごを使って，いろいろな形をつくらうとしている。 技 ひごを使って，いろいろな形を構成できる。
4	○格子点を使って，いろいろな形を構成することができる。	・格子点を使って，いろいろな形を構成する。	関 格子点を使って，いろいろな形をつくらうとしている。 技 格子点を使って，いろいろな形を構成できる。

20 おなじ かずずつ わけよう (P. 156~157)

3月上旬 [2時間]

【単元の目標】

- ・具体物をいくつかずつに等分しようとしている。
- ・具体物をいくつかずつに等分する方法を考えることができる。
- ・具体物をいくつかずつに分けたり、等分したりすることができる。
- ・1つの数を同じ数ずつ分けることで、数にいろいろな見方があることを理解する。

【単元の評価規準】

- 関**…身の回りの具体物を適当な大きさのまとまりをつくって等分しようとしている。
- 考**…身の回りの具体物をいくつかずつに等分することについて、絵や図、式に表して考えている。
- 技**…身の回りの具体物をいくつかずつに分けることができる。
- 知**…身の回りの具体物を等分する方法を理解している。

時	目 標	学 習 活 動	お も な 評 価 規 準
1	○具体物を同じ数ずつ分けることができる。	・りんごを1人に同じ数ずつ分けると、何人に分けられるか考える。	考 ブロックや絵などを使って、具体物を同じ数ずつ分ける方法を考えている。 技 ブロックや絵などを使って、同じ数ずつ分けるときの人数を求めることができる。
2	○1人分の数を求めることができる。	・バナナを何人かで同じ数ずつ分けると、1人分はいくつになるか考える。	技 ブロックや絵などを使って、1人分の数を求めることができる。

● 1年の まとめ (P. 158~161) 3月上旬 [4時間]

時	目 標	学 習 活 動	お も な 評 価 規 準
1 く 4	○1年の学習内容についての理解を確かなものにする。	・1年の学習内容を確認する。	知 1年の学習内容について、解決の仕方を理解している。

* うちゅう すごろく (P. 162~163) 配当時間なし

※	「うちゅう すごろく」(P. 162~163) は、予備時間や家庭学習などを通して弾力的に扱います。
---	--

* まちがしやすい もんだい (P. 164) 配当時間なし

※	「まちがしやすい もんだい」(P. 164) は、予備時間や家庭学習などを通して弾力的に扱います。
---	---